

【勸修寺文書】 山城

九〇九

當門跡鎮守八幡宮造營料事、爲三社准據、任應安之例、被寄加賀國段錢來年分訖。早以此旨可被申入勸修寺宮之由、所被仰下也。仍執達如件。

長祿貳年三月廿九日

(細川勝元)
右京大夫 在判

大納言法印御房

【古蹟文徵】

九一〇

勸修寺門跡鎮守八幡宮造營料事、以加賀國段錢來年分付其足訖。早守事書之旨、分郡嚴密可被取沙汰由、所被仰下也。仍執達如件。

長祿貳年三月廿九日

(細川勝元)
右京大夫 在判

富樫(桑高)介殿

四月十六日。足利義政、山城北野社に、江沼郡福田莊領家・山代本郷半分等を還付す。

【北野神社古文書】 山城

九一一

北野宮寺領、河内國八箇所、同島頭庄、攝津國榎並上庄半

分、同下庄、東郡戸庄、富田庄鶴飼、瀨得位時枝、丹波國桐野、牧河内村拾七町、丹後國時武保、但馬國氣比庄、美作國吉野保、林野保、山城國池田庄一圓、近江國田中郷、並西方木地頭職、同國八坂庄、越前國社庄、加賀國福田庄領家、山代本郷半分、長崎保、豐田内貳町余、富墓庄、小泉保、能登國菅原庄、飛驒國荒木郷等事、如元所還付也。早法眼禪親并西京神人中領知、不可有相違之狀如件。

長祿二年四月十六日

(足利義政)
右近衛大將源朝臣 在判

四月廿七日。能登守護畠山義忠、幕府の命に依り、遊佐美作守をして珠洲郡若山庄下地を三條實雅の雜掌に交付せしむ。

【足水文書】

九一二

能登國若山庄事、任今月廿一日御施行之旨、可沙汰付下地三條中將家雜掌之狀如件。

長祿二年四月廿七日

(畠山義忠)
在判

遊佐美作守殿

八月廿三日。足利義政、石川郡大乘寺領押野莊内散在田畠屋敷等に段錢・臨時課役等を免除す。

【大乘寺文書】 石川郡

九一三

加賀國押野庄内大乘寺領散在田畠屋敷等目錄在別紙段錢臨時課役人夫傳馬以下事、所免除也。早爲守護使不入之地、領掌不可有相違狀如件。

長祿二年八月廿三日

(足利義政)
内大臣兼右近衛大將源朝臣 在判

八月廿三日。足利義政、鹿島郡永光寺に、同寺領羽咋郡若部保及び散在分を安堵せしむ。

【永光寺文書】 鹿島郡

九一四

能登國永光寺領、同國若部庄并散在分目錄在別紙事、早任當知行之旨、領掌不可有相違之狀如件。

長祿貳年八月廿三日

(足利義政)
内大臣兼右近衛大將源朝臣 在判

十二月廿四日。幕府、石川郡大乘寺に制札を與

ふ。

【大乘寺文書】 石川郡

九一五

禁制

加賀國大乘寺

一、軍勢甲乙人等亂入狼藉事。

一、伐取竹木事。

一、寺中風呂俗人押入事。

一、於寺邊致殺生事。

一、以權門吹舉、遂任持事。

右條々、堅被停止訖。若有令違犯之輩者、速可被處罪科之。縱亦雖爲任持檢門、背此條目内者、以門中評議、永可被擯出之由、所被仰下也。仍下知如件。

長祿二年十二月廿四日

(細川勝元)
右京大夫源朝臣 在判

十二月廿四日。足利義政、鳳至郡總持寺に、山林・田畠・敷地等を安堵せしむ。

【總持寺文書】 鳳至郡

九一六